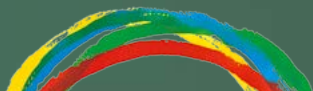


しんしゅうせいずいまくえんきんかんせんしょう

侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD) という病気を知っていますか？



監修：川崎医科大学 小児科学 主任教授 尾内 一信 先生



しんしゅうせい ずい まく えん きん かん せんしょう
**侵袭性髄膜炎菌感染症(IMD)は、
どのような病気ですか？**

IMD : Invasive Meningococcal Disease





ずい まく えん ぎん
**髄膜炎菌が原因で起こる
全身性の感染症です。**

侵襲性髄膜炎菌感染症は、髄膜炎菌が原因で起こる感染症です。

髄膜炎菌は、健康な人の鼻やのどの粘膜にも存在していますが、ヒトからヒトへうつり、鼻やのど、気管の粘膜などに感染します。さらに血液や髄膜に侵入して全身に広がると、菌血症や敗血症、髄膜炎、髄膜脳炎などの侵襲性髄膜炎菌感染症を引き起こします。

侵襲性髄膜炎菌感染症は**進行が速く、重症化して死に至ることもあり**、注意が必要です。



侵襲性髄膜炎菌感染症の病型¹⁾

- 
1. 菌血症
 2. 敗血症
 3. 髄膜炎
 4. 髄膜脳炎
 5. ウォーターハウス・フリーデリクセン症候群(急性劇症型)

1) 国立感染症研究所 病原微生物検出情報 月報 Vol.39, No.1 (No.455) 2018年1月発行
侵襲性髄膜炎菌感染症 2013年4月～2017年10月
(2022年11月25日アクセス : <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-vol39/7775-idx455.html>)





しんしゅうせい すい まく えん きん かん せんしょう
**侵袭性髄膜炎菌感染症では、
どのような症状がみられますか？**



最初は風邪に似た症状で診断が難しく、急速に重篤化します。

侵襲性髄膜炎菌感染症の発症初期には、発熱、頭痛、嘔吐などの風邪に似た症状があらわれます。診断が難しく、早期に適切な治療を受けることが難しいとされています。髄膜炎菌は、細菌性髄膜炎を起こす他の細菌の100倍から1000倍という大量の内毒素を産生します。症状が急激に進行し、治療開始のわずかな遅れが致命的な結果につながることもあり²⁾、その致命率は19%と報告されています³⁾。また、発症から24～48時間以内に患者の5～10%が死亡し、回復しても、約10～20%の患者さんに難聴や神経障害、循環不全による壊死が原因の手足の切断などの後遺症も報告されています⁴⁾。

重症な侵襲性髄膜炎菌感染症の典型的な症状と発現時期

発症後の時間 0～12時間 13～20時間 21時間～

発症



- ・発熱
- ・頭痛
- ・嘔吐



- ・項部硬直
- ・光過敏症
- ・皮下出血



- ・意識障害
- ・けいれん発作

- 2) 林英生、岩本愛吉、神谷茂、高橋秀実 監訳：ブラック微生物学第2版、P761, 丸善、東京、2007
- 3) 国立感染症研究所 病原微生物検出情報 月報 Vol.39, No.1 (No.455) 2018年1月発行 侵襲性髄膜炎菌感染症 2013年4月～2017年10月
(2022年11月25日アクセス: <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-vol39/7775-idx455.html>)
- 4) Rosenstein NE et al: N Engl J Med 344(18): 1378-1388, 2001





しんしゅうせい すい まく えん ぎん かん せんしゅう
**侵襲性髄膜炎菌感染症は
日本で発生しているのですか？**





しんしゅうせい ずい まく えん きん かん せんしゅう

侵襲性髄膜炎菌感染症は、 学生寮などでの集団感染が報告されています。

侵襲性髄膜炎菌感染症は、誰でもかかる可能性があります。乳幼児と10代後半に感染のピークがあり、死亡率は10代で最も高いことが報告されています⁵⁾。侵襲性髄膜炎菌感染症は、**人と人の接触が密な場所で発生しやすく、学生寮などの集団生活、食器やコップなどの共有などがリスクとして挙げられます。**

日常生活に潜む侵襲性髄膜炎菌感染症に感染するリスク例



上気道感染⁶⁾



学校や寮などの狭い空間での生活⁷⁾



ペットボトルの回し飲み⁸⁾



食器やコップの共用⁸⁾



これに限らず、飛沫(せき、くしゃみ)で感染することがあります

5) American Academy of Pediatrics : PEDIATRICS 2005 ; 116 (2) : 496

6) Centers for Disease Control and Prevention. Epidemiology and Prevention of Vaccine-Preventable Diseases.

7) Meningococcal : The Green Book, Chapter 22.

8) Immunization Action Coalition Meningococcal : Questions and Answers

(2022年11月25日アクセス : <http://www.immunize.org/catg.d/p4210.pdf>)





しんしゅうせい ずい まく えん きん かん せんしょう
**侵襲性髄膜炎菌感染症を防ぐには、
どうしたらよいですか？**





しんしゅうせい ずい まく えん きん かん せんしゅう

侵襲性髄膜炎菌感染症を 予防するためのワクチンがあります。

侵襲性髄膜炎菌感染症は、ワクチンで防げる病気です。日本でも2015年5月より4価髄膜炎菌ワクチンの接種が可能となりました。集団生活が始まる前の10代前半での接種が望ましいでしょう。特に寮や合宿所での共同生活は感染リスクが高まるので、共同生活が始まる前にワクチンを接種するのが有用です。また、侵襲性髄膜炎菌感染症の流行地域も含め、海外渡航の前にワクチン接種が必要な国や地域があります。なお、接種後に副反応がみられることがありますが、通常は一時的であり、数日で消失します。最も多くみられる症状は接種部位疼痛、筋肉痛、倦怠感、頭痛などです⁹⁾。

※4価髄膜炎菌ワクチン：A、C、Y、W型の髄膜炎菌ワクチン

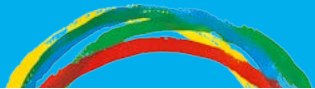


9) メンクアッドフィ電子添文
2022年11月改訂(第2版)



しんしゅうせい ずい まく えん きん かん せんしょう
海外では、侵襲性髄膜炎菌感染症
予防ワクチンの接種は、どのような状況ですか？





ずい まく えん ぎん

多くの人が髄膜炎菌ワクチンを 接種しています。

※日本で承認されている4価髄膜炎菌ワクチンは、
70か国で発売されています(2018年2月現在)

近年、世界各国で血清群W-135髄膜炎菌による侵襲性髄膜炎菌感染症が急増したため、イギリスやオーストラリアでは、ワクチンの緊急接種が実施されました。さらにイギリスでは、2015年に髄膜炎菌結合体ワクチンが定期接種プログラムに導入され¹⁰⁾、オーストラリアでは、2017年以降に4価髄膜炎菌ワクチンの無料接種が実施されています¹¹⁾。

アメリカでは、現在10歳超と16歳超へのワクチン接種が推奨されており¹²⁾、13～17歳のワクチン接種率は、85.1%となっています¹³⁾。

留学や海外に長期間滞在する際には、髄膜炎菌ワクチンの接種をおすすめします。

主要7カ国(G7)の髄膜炎菌ワクチン定期接種の有無

日本	アメリカ	ドイツ	イギリス	フランス	イタリア	カナダ
×	○	○	○	○	○	○

WHO vaccine-preventable diseases monitoring system. 2018より作成
(2018年10月16日アクセス: http://apps.who.int/immunization_monitoring/globalsummary)

- 10) NHS England and Public Health England 2016, Meningococcal chapter 22 of the Green Book
(2018年10月16日アクセス: https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/554011/Green_Book_Chapter_22.pdf)
- 11) Government of Western Australia, Department of Health, Kalgoorlie targeted Men W vaccination program, 8 December 2016
(2018年10月16日アクセス: <http://healthywa.wa.gov.au/News/Meningococcal-W-vaccination>)
- 12) WHO vaccine-preventable diseases monitoring system. 2018
(2018年10月16日アクセス: http://apps.who.int/immunization_monitoring/globalsummary)
- 13) Centers for Disease Control and Prevention. Weekly/August 24, 2018/67(33) : 909-917
(2018年10月16日アクセス: <https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/67/wr/pdfs/mm6733a1-H.pdf>)

Webサイト「よくわかる髄膜炎菌」を ご利用ください



「よくわかる髄膜炎菌」では、^{せい} ^{ぜい} ^{ずい} ^{まく} ^{えん} ^{きん} ^{かん} ^{せん} ^{しゅう} 侵襲性髄膜炎菌感染症についての正しい理解、予防、そして早期発見・治療が円滑に進むよう、侵襲性髄膜炎菌感染症に関する日本や世界の情報を収集し、一般の方々や医療関係者に向けて広く提供しています。

よくわかる髄膜炎菌

検索

www.imd-vaccine.jp



主催：サノフィ株式会社

後援：VOICES OF MENINGITIS™(在米IMD患者会)

サノフィ株式会社

〒163-1488

東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

MAT-JP-2208608-10-12/2022

sanofi